

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	9 / 1963 / 30
タイトル	県下理科研究発表会、植物部門
著者名	斉藤久子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

植 物 部 門

齊 藤 久 子

数多くのチャートを背に、和田さんは一生懸命説明をしています。

第16回青森県児童生徒理科研究発表会は青森商業高校で開かれました。植物部門には、我が校を含めて6校が長い間の研究の成果を発表しました。各校の研究発表項目は次のようです。

- 葛沼周辺の地表面植物層土壌P日傾斜の関係……1位 青 高
- 原形質流動の研究Ⅱ報……2位 弘中央高
- 南八甲田黄瀬沼に於けるプランクトン……3位 大三沢高
- 乳酸バクテリア増殖に対するフッ素の影響について 野辺地高
- タンポポの根の再生 聖愛高
- 酸化還元酵素ペルオキシターゼについて 板柳高
- バラの色素を比較する 板柳高

以上の発表を傍聴して、各校共発表者は非常に落ち着いていたと思います。何といつても一番落ち着いていたのは、我が校の発表者和田さんでしょう。傍聴している側のほうが、初めから終りまで、はらはらし通し。

研究課題が 昨年又はそれ以前からの引き続きが多いように思われます。それ以外でも全般に身近な所から課題を得、結果を出しています。野辺地高のフッ素入り菌みがきと普通菌みがきの虫歯についての影響などはその1例でしょう。又聖愛高のタンポポの根の再生や、弘中央高の原形質流動の研究などには、これからの期待が持たれます。

閉会式までの時間が相当あつたため、昼食を取つた後、かつてに遊びましたが少しうるさすぎたのではないかと思います。しかしどの部門も、時間的に余り差が生じないように運営して行く必要があるように思われます。参加校の関係で無理かもしれませんが、……………

4年連続1位とは、すげらしいではありませんか。各校とも何日も、いいえ何ヶ月もの月日を費いやして完成した作品ですから、「我が校こそ1番だ。」という気持でどの学校も参加しているのです。その中から我が校が、加えて4年連続で1位になれたのですからうれしさも、ひとしおです。特に私のように、中学時代に余り興味を持たず、反対に嫌いだつた程の生体部に自ら入り、草花の名もよく知らないで、その他の面でもちつとも役立たなかつた者には、この受賞はこれからの活動に良い刺激となるのではないのでしょうか。又できるだけそうありたいと思います。